



柳家喬太郎

上方落語五流派競演会 Vol.9

笑福亭
鶴
光

林
家
染
二

桂
か
ひ
枝

桂
春
蝶

桂
南
光

平成27年 **6月7日【日】** 14:00 開演 (13:30 開場)

茨木市市民総合センター・クリエイトセンター・センターホール

【全席指定】 1階席4,000円／2階席3,500円

◎65歳以上、障害者及びその介助者は500円引き ◎青少年(24歳以下)は1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKA メセナカード各会員は10%引き

*各会員割引の取り扱いは文化振興財団のみです。*就学前のお子様はご遠慮ください。

◆チケットのお申込み・お問合せ

(公財)茨木市文化振興財団・文化事業係072-625-3055(市民会館1階9:00~17:00)

インターネットチケット <http://www.ibabun.jp>

*予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売は発売翌日からです。

●市民会館チケットカウンター9:00~17:00 ●クリエイトセンターチケットカウンター9:00~17:00

◆その他の販売所[4月7日店頭販売有り 10:00~]

ローソンチケット0570-000-777・Lコード予約0570-084-005(Lコード56448) *ローソン、ミニストップ各店舗で購入できます。

チケットぴあ0570-02-9999(Pコード441-331) *サンクス、サークルK、セブンイレブン各店舗で購入できます。

◆主催:公益財団法人茨木市文化振興財団 ◆後援:茨木商工会議所/茨木市観光協会

◆制作:三栄企画 ◆構成:相羽秋夫

【番組】
「上方落語界の現状」相羽秋夫
*阿弥陀池桂かい枝
「幽霊の辻」林家染二
「火焔太鼓」桂南光
中入り
「七段目」桂春蝶
「たいこ腹」柳家喬太郎
「善悪双葉の松」笑福亭鶴光
お囃子/なにわの会

4月7日(火) 9:00 予約開始

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。残席がある場合は翌日から窓口販売いたします。

伝統/船場/地域
20th
since1996

“あなたの選んだ魅惑の落語会”なのです

茨木の「初夏の風物詩」となった「上方落語五流派競演会」が、早いもので九回目を数えることになった。昨年、この会にご来場の皆様方に、希望する出演者のアンケートをお願いした。今回は、その結果の中から、あなた好みの演者をピックアップしてお届けする。つまり、「あなたが選んだ魅惑の落語会」なのである。

改めてそのラインナップを眺めてみると、実に魅力的な顔ぶれであることを再認識する。そこには、確実に「今」が存在する。言い換えれば、現在最も輝いている落語家がずらりと顔を並べたのである。皆様方の落語への想い入れが、如実に表われた落語会であることを保証する。

それでは、そのあなた好みの強力メンバーの顔ぶれを出演順にご紹介しよう。

まずトップバッターは、五代目文枝一門の桂かい枝である。

まさにインターナショナルな落語家で、英語落語をひっさげてアメリカを横断したのを始め、世界各国に落語を広めている。文化庁の文化交流使節の大役をおおせつかり、かい枝の地道な活動が国からも認知された。国内にあつては、古典落語を現代に蘇えらせる作業を果敢に試みている。伝統芸能の文楽とのコラボレーションもその一つである。「阿弥陀池」は、かい枝の現代的センスが横溢した開口一番にふさわしい演目である。

□ 続く染丸一門の筆頭弟子林家染二も、落語への挑戦欲旺盛な落語家である。

大阪の三大演芸プロダクションである吉本興業・松竹芸能・米朝事務所のどこにも所属せず、独立独歩の立場で、枠にとられない自由な活動を続けている。たゆまぬ努力は持ちネタ百席をゆうに越えた。その中でも師匠染丸の得意芸である芝居噺や音曲噺への出来栄は出色だ。今回の「幽霊の辻」は、故桂枝雀が得意とした新作で、こういう領域にも挑戦する染二の真骨頂が垣間見える。

□ 中入りのトリは、米朝一門の桂南光である。スケールの大きい語り口は、入門当初から多くの人に注目されてきた。

近年、年令と共にその成熟度が増し、南光の人柄や、美術・音楽・料理など幅広い知識が噺の中にそこはかとなく表出し、南光の評価は



相羽秋夫（演芸評論家）

高まる一方である。今回演ずる「火焰太鼓」は、東京ネタだが、南光の手にかかること、見事に上方風流に変貌を遂げる。そのサジ加減をじっくりと楽しんで欲しい。

□ そして春団治一門の桂春蝶である。父の名を襲名して、すっかりその名跡を定着させた。これ以上の親孝行はないであろう。

高槻市で定期的に落語会を開いたり、茨木市に父の墓があるなど、北摂とのつながりが深い。さらに大阪のあの広いフェスティバルホールで独演会を成功させる実力を持っている、今ノリに乗っている中堅落語家だ。

□ 「七段目」は、忠臣蔵がベースになった芝居噺だが、最近創作落語にも情熱をかたむける春蝶の古典の実力を堪能して欲しい。

□ トリは笑福亭一門の笑福亭鶴光である。

東京に基軸を置きながら上方での活動も怠らない。かつて桂小文治や三遊亭百生、また桂小南という名人がいたが、鶴光も同じような存在として評価されている。

東京の落語の良さを巧みに取り入れた鶴光落語とも言うべき芸風が、東西で多くのファンを引きつけている。

□ 「善悪双葉の松」は、上方講談「善悪二筋道」を落語化したもので、鶴光しか演じない貴重な演目である。通のお客様には垂涎の噺だ。

□ そしてそして、東京よりのお客様は、柳家喬太郎。

激戦の東京落語界にあつて注目を集めている真打である。一九八九年に柳家さん喬に入門して二十六年目ながら、この存在を勝ち取ったのは、不断の努力以外にない。

浪曲・講談・芝居など広い分野の人たちと積極的に交流を続け、芸の幅を拡げてきた。そうした成果が実ってきたのだ。

□ 古典も新作もバランス良くこなすが、今回は「たいこ腹」という翫間が主人公の江戸前の噺を披露してくれる。

□ いよいよ来年は十回目を迎える。記念の会にふさわしい企画を検討中だが、その前年の今年もこのような充実した顔ぶれでお届けする。「チケットの購入をお早目に」とお勧めする。
(敬称略)

◆チケットのお申込み・お問合せ

(公財)茨木市文化振興財団 072-625-3055 (茨木市市民会館1階 9:00~17:00)

* 財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。お席のご指定もうかがいます。

座席表をご用意いただくと便利です。

* 予約後は、1週間以内に市民会館またはクリエイトセンターチケットカウンターでご精算ください。

* 予約チケットの郵送をご希望の場合は、(チケット料金+郵送料400円)を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。

〈払込口座〉00970-7-190576 / 加入者名: 茨木市文化振興財団

◆クリエイトセンター(茨木市市民総合センター)茨木市駅前四丁目6番16号 / 072-624-1726

